

平成26年度全国学力・学習状況調査結果概要

女川町立女川小学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善への取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成26年4月22日(火)

3 対象学年 第6学年(在籍46名 欠席者0)

4 調査事項および内容 教科に関する調査～国語 算数
生活習慣や学習環境に関する質問紙調査～児童に対する調査

5 教科に関する調査の概況

(1) 全国平均正答率との比較 A:「知識」に関する問題 B:「活用」に関する問題

国語A	国語B	算数A	算数B
同等の正答率であるがわずかに下回っている	同等の正答率であるがわずかに下回っている	同等の正答率であるがわずかに下回っている	数ポイント程度下回っている

(2) 国語の課題と指導改善のポイント

ア 故事成語の意味と使い方を理解すること。

故事成語を言葉として聞き慣れていても、その意味や使い方が曖昧で分からない児童が半数以上いる。授業の中で言葉として紹介するだけでなく、具体的な使い方を示し、調べたことを引用して文章にあらわしたり、発表し合ったりしていく。また、慣用句や故事成語、ことわざなどに関する本を学級文庫として教室に常設するなど環境面を整えていく。(A問題)

イ 話合いの観点に基づいて情報を関係づけること。

話合いの適切な記録の仕方についての理解が不十分だったために正答率が低い。これは、普段の学級活動での話合いの場で経験を積み重ねれば身に付かない部分もあるので、「言語活動としての話合い」として意図的に学級活動や各教科等と関連させながら力を付けていく。(A問題)

ウ 課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むこと。

辞書等で言葉を調べる経験を積ませることで、五十音順や画数、部首などの中から、課題を解決するための最適な検索方法を選択し、よりよく活用できるようにする。また、調べ学習等で図書室を積極的に利用し本に接する機会を意図的に設定していく。(B問題)

エ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えること。

詩の知識というより、二つ以上の文章から類似点や相違点を見出す力に課題がある。読む活動だけでなく、自分の意見を発表する活動でも、友達の意見との類似点・相違点を意識した聞き方やとらえ方、発表の仕方等を積み重ねていく。(B問題)

(3) 算数の課題と指導改善のポイント

ア 分数の相等及び大小について理解していること。

基本的な数の仕組みについて放課後スキルタイムなどを活用し、向学館職員や大学生の学習ボランティアの支援を受

けながら個別指導の徹底を図る。(A問題)

イ 作図に用いられている図形の約束や性質を理解していること。

放課後スキルタイムの有効活用や授業時間内での小テストなど、既習内容を復習する時間を設定し、基礎・基本を定着させていく。

(A問題)

ウ 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できること。

それぞれの計算がもつ意味をしっかり理解させる。それに加え、生活におけるさまざまな事象を取り上げながら実生活と結び付けた授業を展開し、四則計算の方法の理解を深めたり、筋道を立てて考えたり、説明したりする活動を多く取り入れていく。(B問題)

エ 最大値に着目して、棒グラフの棒の枠の中に表すことができない理由を記述できること。

1つの情報を表すグラフでも目盛の幅や数値を変えることで、さまざまな表現方法があることを理解できるようにする。また、社会科等の教科でもグラフを読み取る力を培ったり、日常生活の中でもデータをグラフにまとめる学習を多く取り入れ、グラフ学習のよさを味わわせたい。(B問題)

オ 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができること。

割合の学習のなかで「基準量(もとになる量)」から見て何倍なのか、また何分の一倍なのか理解できるようにする。

基準量に対する相関関係をイメージできるよう数直線の活用能力を伸ばす。(B問題)

6 生活習慣や学習環境に関する調査の概況

(1) 家庭では、宿題以外の学習に取り組んでいない児童が多い。また、土・日の学習、読書時間は全国に比べ短く、自主学習、読書に取り組む児童が少ないことが分かった。また4時間以上テレビを見ている児童が全国に比べ多いことも分かった。今後は家庭と連携し家庭学習を質的・量的に充実させていく。

(2) 自分の考えを書いたり、説明したりする活動に苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。話し合い活動などを通し、自分の考えを深めたり広げたりする活動を取り入れていきたい。

(3) 「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」という質問に対して全国に比べ、肯定的な意見が少なかった。チャレンジする気持ちや完遂する気持ちを高めるために、教育活動全体を通して志教育の視点から活動に取り組みせたい。

7 今後の取組

(1) 学習の約束ごと(女川スタンダード)の定着、宿題の提出の徹底、スキルタイムへの課題意識をもった取組など、学習に関する基本的な事柄を徹底的・継続的に指導し身に付けさせる。

(2) 基礎・基本の定着を図る意図から、授業時間の数分を利用し、簡単な小テストや復習の時間を意図的に設定し反復練習を継続的に行っていく。

(3) 今回の調査では無解答率が少なかったことが、成果として挙げられることから、通常のワークテストなどでも、最後まで粘り強く取り組み、見直しを必ず行い無解答はしないで提出するという習慣を付けていく。また、学習以外の教育活動においても、完遂能力を養い達成感を味わう経験を重ねていく。

(4) 下位児童の基礎・基本の定着と上位児童の発展的課題への取組をよりよい指導体制で行う意図(少人数指導やT・Tでの指導)を充実していく。

(5) 特に各教科のB問題に関して、児童が経験したことのないような出題形式のため「問題に不慣れ」という課題がある。上位の児童を中心に、放課後スキルタイムでは積極的に発展問題に取り組ませたり、文章を読み解く力の更なる向上を図ったりしながら、いろいろな問題を経験する機会を増やす。

(6) 家庭での学習習慣に関するアンケートから、宿題以外の学習(予習・復習)を自主的に行う児童が少ないことが分かった。特に土日の学習・読書時間が全国に比べ低いことから、家庭での学習習慣が身に付くように今後さらに家庭との連携を図っていく必要がある。